

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育センターなないろ こども発達支援センターなないろ		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 3 月 4 日 ～ 令和 7 年 3 月 20 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	117	(回答者数) 91
○従業者評価実施期間	令和 7 年 3 月 4 日 ～ 令和 7 年 3 月 20 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 41
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 4 月 11 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各種専門職によるフォーマルアセスメントを実施することができる。医療的視点での療育アプローチを提供することができる。	各種療法士による専門的アセスメントを実施し、より具体的な発達評価を行うことができる。また、園生活全般においては保育士による生活支援を充実させ、保育園生活と変わらない生活スタイルを確立することができる。	職員数を充足させることにより、多職種による多角的なアプローチを行い、療育支援の質の維持向上につなげていく。
2	集団療育、個別療育、専門グループ療育の多角的アプローチによる療育を提供することができる。	各種専門職による、多角的な療育アプローチにを重視し、その児に合った療育アプローチをコーディネートすることができる。	外部研修などに積極的に参加することで、センター内の考え方にとらわれることなく、常に新しい療育の在り方を模索していく。
3	発達特性、発達年齢によるクラス構成の基、その児に合ったクラス設定をすることができる。	それぞれの発達特性や、発達年齢を評価し、環境設定、活動内容を設定することができる。	施設内研修、外部研修などにより職員のスキルアップを図り、より充実した療育支援に結び付けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童数が多く、イベント参加人数が多くなることで、園内のイベント開催ができないものがある。	ニーズに対応することで利用パターンが複雑になりやすく、登録児童数が増えてしまう。	ハード面の設備には限界があるため、園内のイベントが困難であった場合には、近隣の施設(体育館やイベントホール)などを利用することでイベントの開催を継続し、内容についても充実させることが出来るように入念な打ち合わせを行う。
2	施設周辺の道路がやや狭いことや、自然豊かな地域であるため道路周囲に木が生い茂ることがあり、道路状況に影響することがある。		市町村へ依頼し、道路に干渉する部分に関しては除去して頂けるように働き掛けているが、必要に応じて所有者の方と連絡を取って対処する必要がある。
3	甲府地区と比較すると、冬場に積雪しやすい傾向にある。		天災に関しては予測不可能な部分ではあるが、安全を第一に考えた上で可能な限り受け入れ行う。また積雪があった際には融雪剤の使用などにより道路状況にも配慮していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	療育センターなないろ					公表日	令和 7 年 4 月 15 日			
					利用児童数	117名		回収数	91	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	75	3	0	12				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	83	3	0	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	78	6	0	7				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	84	1	0	6				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	87	2	0	2				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	44	7	2	38		令和7年度より支援プログラムの公表を実施することとなっております。日々の活動内容は連絡帳等により発信していきます。		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	88	3	0	0				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	86	2	0	2				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	84	4	0	3				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	83	4	0	3		多角的な支援により様々な面で成長することが出来ました。未就学児に対する個別療育の拡充を期待します。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	61	12	1	17		新型コロナも落ち着いたため、多くの児童が交流できると思います。感染症により交流は控えておりましたが、令和6年度より交流保育を再開しております。		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	90	1	0	0				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	88	2	0	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	78	7	0	6				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	82	9	0	0		活動の様子や課題などを含めた状況報告がありとてもありがたいです。給食の写真や食べた量などありがたいです。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	82	6	0	3				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	84	4	0	3				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	77	5	0	9				
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	83	3	0	5					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	87	3	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	86	3	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	83	3	0	4		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	84	3	0	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	88	1	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	88	1	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	85	4	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	68	20	1	2	いつも先生方が笑顔で接して下さるので子ども毎日いきいきと通うことが出来ています。	通所される児童をはじめ、保護者の方々にも安心感をもっていただけるよう日々の関りや業務改善に取り組んでまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	65	20	2	4		
	29	事業所の支援に満足していますか。	84	6	0	1	子どもの居場所を作って下さり家族一同本当に感謝しております。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		療育センターのない児童発達支援		公表日 令和 7 年 4 月 15 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員配置を充足させることで突発的な欠勤に対応することが出来る体制を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋数を多く確保しており、個別療育に使用することをメインとしているが必要に応じてクールダウンなどを行うことも可能となっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者委員の設置をしているが、外部評価は産業医に依頼している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		新しいシステムの導入により、現場のスタッフもタイムリーに計画内容を確認することができる体制を整えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		支援プログラムが固定化されないよう、月単位でプログラムを設定している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			支援終了後に話し合いを行うことは難しいが、職員間でやり取りが可能なシステムを構築することで連携を図っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○				
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			日々の連絡帳内容を充実させることに加え、必要に応じて電話で状況を伝えるなどして共通理解を図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		入園時にはアレルギーの確認を行い、必要な場合は医師の指示書を提出して頂いている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				